

第66回塑性加工連合講演会 「テーマセッション」のご案内

第66回塑性加工連合講演会（平成27年10月29日（木）～31日（土））、いわき市文化センターにおいて、下記の5件のテーマセッションを開催いたします。奮ってご応募下さい。ご不明の点につきましては、各セッションのオーガナイザーまでお問合せください。

テーマセッションの特徴は以下の通りです。

- (1) 一般講演とは区別してプログラムを組みます。
- (2) 特定のテーマに関する講演を広く公募します。
- (3) 公募論文の取捨選択や討論時間などの運営方法はオーガナイザーに一任します。（採択されなかった場合には一般講演に回っていただきますのでご了承ください。）

記

申込方法 学会のホームページを利用したオンライン申込をご利用ください。

講演申込用ホームページアドレス <http://www.jstp.or.jp>

申込締切日 平成27年6月18日（木）

テーマセッション1「軽量・高強度化に貢献するプラスチック成形加工技術」

オーガナイザー：中山和郎（NKリサーチ）、高山哲生（山形大）、長岡猛（名大）、安原鋭幸（日本工大）

協力：プラスチックプロセス分科会〔主査：中山和郎〕

問合せ先：中山和郎（NKリサーチ）、E-mail: kazuo-nakayama@jcom.home.ne.jp

プラスチックは、軽量かつ易成形性など、その特徴が活かされて、日用品から先端産業分野へその用途が広がっています。さらに、成形・加工に伴う構造の制御や複合化技術などによる高強度化によって、プラスチック及びコンポジットの自動車、航空機など、輸送機器分野への応用へと展開しています。本セッションでは、軽量・高強度化に貢献するプラスチック成形加工技術に関して、基礎研究から部品、部材、製品の技術開発の現状と動向について討論し、将来を展望します。

テーマセッション2「鍛造加工における素材・工具間界面現象に関する研究の最新動向」

オーガナイザー：北村憲彦（名工大）、王志剛（岐阜大）、松本良（阪大）、五十川幸宏（大同大）、

早川邦夫（静岡大）

協力：鍛造分科会〔主査：五十川幸宏〕、プロセス・トライボロジー分科会〔主査：北村憲彦〕

問合せ先：早川邦夫（静岡大）、E-mail: hayakawa.kunio@shizuoka.ac.jp

今日の鍛造加工では、素材の材質、バルクから板状に亘る素材形状の多様化、製品形状や工程の複雑化・高付加価値化や、環境に対応した潤滑剤の利用などの課題が山積しています。鍛造加工の成否を握る要因の一つに、素材-工具間界面現象の理解・解明とその応用があり、潤滑、表面処理などの最新技術の開発・適用が積極的に進められています。本テーマセッションでは、このような鍛造工程における素材・工具間の界面現象に関する講演・ディスカッションにより、最新の動向および今後の課題について議論します。

テーマセッション3「実用化を目指すマクロ、ミクロ、ナノ形態制御による最新ポーラス材料」

オーガナイザー：久米裕二（山形大）、清水透（産総研）、北園幸一（首都大）

協力：ポーラス材料分科会〔主査：馬淵守〕

問合せ先：北園幸一（首都大）、E-mail: kitazono@tmu.ac.jp

超軽量ポーラス材料の特性は、単なる気孔率の増減だけではなく、そのセル構造を目的に応じて制御することによって、最大限発揮させることが可能となります。近年、ポーラス材料に関する研究は、マクロ、ミクロ、ナノサイズのセル形態を適切に制御することにより、飛躍的に発展しました。本テーマセッションでは、実用化を目指す研究開発中の最新ポーラス材料に関して、その最適なセル形態制御法について議論する場を提供します。

テーマセッション4「押出し加工の新技术の開発および流動制御に関する技術」

オーガナイザー：陳中春（鳥取大）、星野倫彦（日本大）

協力：押出し加工分科会〔主査：星野倫彦〕

問合せ先：星野倫彦（日本大）、E-mail: hoshino@mech.cst.nihon-u.ac.jp

新たな押出し加工を目指した開発や、押出し加工の重要な問題である材料流動を最適に制御して良好な製品を得ようとする研究が進められております。これらに関わる技術者・研究者が様々な観点から議論を交わすことで、開発や研究の一助となればと本セッションを企画しましたので、奮ってご参加下さい。

テーマセッション5「超音波振動を援用した塑性加工」

オーガナイザー：三浦光（日本大）、相澤龍彦（芝浦工大）、加藤光吉（光音技術研究所）、神雅彦（日本工大）
協力：超音波応用加工分科会〔主査：三浦光〕
問合せ先：神雅彦（日本工大）、E-mail：jin@nit.ac.jp

各種の塑性加工に超音波振動を援用することにより、材料の変形形態や摩擦特性が変化することが知られている。当学会においても、超音波振動の援用によって加工力が低減したり、加工限界が向上するといった具体的効果が、いくつか発表されている。このテーマセッションでは、塑性加工、および金型加工などの周辺技術も含めて、それらに対する超音波振動援用の効果に関して、まとめて議論する場としたい。多くの発表をお待ちしております。

テーマセッション6「板成形にけるサーボプレス利用等のひずみ速度変化を利用した成形性向上」

オーガナイザー：桑原利彦（農工大）、吹春寛（JSOL）、高橋進（日本大）
協力：板材成形分科会〔主査：高橋進〕
問合せ先：高橋進（日本大）、E-mail：takahashi.susumu32@nihon-u.ac.jp

板材の伸び等の機械的性質は、成形性に大きく影響をおよぼします。材料の潜在的な特性を引出す方法の一つとして、引張試験中に引張を停止することによる伸びの向上等が報告されています。そこで、本テーマセッションでは、材料試験における引張および圧縮速度変化が機械的性質におよぼす影響とプレス成形中のスライドの速度変化が成形性におよぼす影響等を、実験及びシミュレーションの観点から論議ができればと思っています。材料の基礎試験および実成形での検討の多くの発表を期待しています。

11th INTERNATIONAL SESSION 2015

Organizer: Zhigang Wang (Gifu University), Yoshinori Yoshida (Gifu University), Ryo Matsumoto (Osaka University),
Ming Yang (Tokyo Metropolitan University), Shinichiro Fujikawa (NISSAN MOTOR CO., LTD)
Contact: Shinichiro Fujikawa (NISSAN MOTOR CO., LTD), E-mail: s-fujikawa@mail.nissan.co.jp

The 11th International Session is organized in the Japanese 66th Joint Conference on Technology of Plasticity at Fukushima. The official language in this session is English. Any presentations relating to technology of plasticity are welcome. This session may be divided into sub-sessions, e.g., bulk forming, sheet forming, etc. Talks given by overseas researchers/students in Japan as well as researchers/students visiting from all over the world, especially from KSTP and CSTP, are welcome. Japanese domestic researchers/students could give English presentations in this session. A two-page abstract in English is required as normal session presentations.

第11回 インターナショナルセッション2015

オーガナイザー：王志刚（岐阜大）、吉田佳典（岐阜大）、松本良（阪大）、楊明（首都大）、藤川 真一郎（日産自動車）
問合せ先：藤川 真一郎（日産自動車）、E-mail: s-fujikawa@mail.nissan.co.jp

第66回塑性加工連合講演会に第11回インターナショナルセッションを設置します。このセッションに限り公用語は英語ですが、塑性加工に関するものである限り、いかなる発表も受け付けます。海外から来日中の研究者・留学生および海外からの研究者や学生が発表する場として好適です。また日本人研究者や学生も英語で発表を行うことができます。他のテーマセッション・一般講演と同様の2ページの概要（ただし英文）が必要となります。

「優秀論文講演奨励賞」について

講演会運営委員会では、塑性加工講演会の活性化と優秀な若手会員の活躍を期待して、新進の研究者・技術者の優秀な論文講演を表彰しております。本賞審査の対象となる方は、**講演発表時に満35才以下の会員**です。35歳以下の講演者で審査を希望される方は、申込時に希望の有無および年齢を選択してください。受賞件数は、分野を偏らないように配慮して、10件程度とします。ただし、過去に本賞の受賞歴のある方は受賞後2年間は欠格期間となります。審査は、座長を含む審査委員による論文内容、発表方法、質疑応答に基づいて、総合的に評価します。優秀論文講演奨励賞の受賞者名及び講演論文名等は、学会誌「塑性と加工」にて公表するとともに、賞状と副賞を贈り顕彰します。